

## 10月29日 原子力規制庁臨時ブリーフィング

- 日時：平成24年10月29日（月）19:45～
- 場所：原子力規制委員会庁舎 記者会見室
- 対応：森本次長 金子防災課長 他

### <報告事項>

○司会 お待たせ致しました。只今より、臨時の会見を始めさせて頂きたいと思っております。

○森本次長 急遽、お集まり頂きまして申し訳ございません。緊急で、こういう会見を開かせて頂きましたのは、先週の10月24日に発表いたしました、いわゆる拡散シミュレーションの情報に一部誤りがございました。そのことが分かったものですから、急遽、開かせて頂いたというものでございます。

最初に誤りの詳細について、まず防災課長より説明を致します。

○防災課長 防災課長でございます。この度皆さんに、共有をさせて頂いた資料にちょっと誤りが発覚致しまして、大変ご迷惑をおかけにするかたちになってしまいました。最初にまずお詫びを申し上げたいと思っております。

お手元に資料2つ配らせて頂いております。一つが拡散シミュレーションの試算結果（修正版）と表紙のついているもの。それからもう一つの綴じになっておりますものが、前回公表させて頂いた部分の地図について、どういうふうに通違っていたかということをご理解頂くための参考の地図でございます。

全部で6つの発電所のサイトの計算について、方位を一つずらして取り扱ってしまったというような通違いが、確認の結果見つかりましたので、それを修正させて頂くものであります。

6つの発電所と申しあげますのは、ご案内にも致しましたが、北から順に、東海第二発電所、柏崎刈羽原子力発電所、それから志賀原子力発電所、それから敦賀発電所、そして玄海原子力発電所と川内原子力発電所、この6カ所でございます。

誤りを、まずしてしまったのはなぜかということだけ簡単に先にご説明致しますが、16の方位に分けてシミュレーションをした点については、既にご説明を申し上げましたが、その16の方位が、実はこの気象のデータの観測をしております発電所によって、記述が実はまちまちでございました。多くのものは、ここに地図に書いてあるとおり、北はNと、北北東はNNEというように表記されているのですけれども、場合によって、例えば北を1番、北北東を2番という番号を振って、コード化をしているような発電所もございます。北が1番、北北東がみんな2番であれば、取り違いをすることは無いのですけれども、実は北北東が一番で、北が16番になっているような取扱いをしているところがあったり、実は南を風下と風上で、実は今回風向きっていうのは気象の北の風とかなんとかと言ってるのとちょっと逆になっておりますけれども、そういう関係で、そ

の反対向きになっていたりですね、そういうコードの振り方が実は統一されておりません。それをシミュレーションで扱う時に、一つの形で取り込めるように、修正というか変換をかけまして、方位を北であるとか、北北東に扱えるようにしているのですが、そのコードを変換するときに、その誤りが生じてしまった。例えば、先ほど申し上げたように、北が1番になっているところを、北北東が1番になっていると思って変換をしてしまったようなケース、あるいは北北東が1番になっているのに、北が1番になっていると思って変換をしてしまったようなケースと、そういったようなものが、結果的に位置方位ずれてしまったというようなかたちになってございます。従って、2つめの方の資料のですね、この矢印が書いてございますけれども、誤りの基本は何かと申し上げますと、今申し上げた方位が、ダイヤルを一つカチャッと回すようなかたちで、一方向ずれているということでございます。冒頭申し上げた6つの発電所について、右回りに一つずれているものもありますし、左回りに一つずれているものもありますし、その書きました資料の方向に回して頂きますと、本来の正しい試算結果になるという状況になっているものでございます。

大変地元の方々にもですね、ちょっと混乱を与えてしまう結果になりまして、大変申し訳ないというふうに思っておりますけれども、結果としてはそのような状況ですので、まずこの点ご理解頂ければと思います。

それからもう一つ実は、若干の数値につきまして、変更をしなければいけない部分が出てきております。これは結果的に、玄海と川内の九州電力の2つの発電所についてなのでございますけれども、今申し上げた気象データの中に、ある時刻に、例えば機器の検査等で、風向きが取れていない、あるいは降雨の状況についてデータが観測されていないというような時刻がいくつかございます。そういったものについての、そのデータの取扱いをですね、きちんと全部を皆の発電所と同じように、取り扱う操作をきちんとしていなかったということが、玄海と川内の発電所については、追加的に分かりました。それは今申し上げました、データが欠損している場合、あるいは風向がほとんどゼロで、計測が出来ていないような場合、先ほど申し上げた機器の検査とか、そういったことが原因であるんですけれども、そういったケースについて、その取扱いがきちんと同じかたちで出来ていなかったもので、それをもう一回、他のサイトと同じように取り扱って、もう1回やり直すと計算の結果が若干異なるという結果になってございます。実際には距離の数字で申し上げますと、0.1km、0.2km、あるいは0.3、4kmといったような差の数字として出ているケースが多いので、図上で見ますとほとんど図は変わらないような結果にはなっておりますけれども、その点につきましても数字が変更になっておりますので、これもそのような原因で生じたものをご理解頂ければというふうに思っております。

それから今ちょっと、前回公表させて頂いたときにも追加的にお渡ししました、プロットした点がどこの市町村にあたるのかということについても、今回の修正を反映した

ものをですね、今作りましたので、それも今お手元に配らせて頂いております。  
行き渡りましたでしょうか。

これも先ほどの 6 発電所について、それぞれ上の地図と下の地図に対応したものが、上の段、下の段に、以前お渡ししたものが変更前という欄に、今回変更して、修正した後の正しいプロットで、そこがどこにあたるかというものを整理したものを変更後というところにしてございます。赤い字で表記されているのが、それが変更になっている、変更前と変更後で、変更されたところがございますけれども、先ほど申し上げましたように、こうずれているということなので、斜め上、斜め下の欄に動いているというふうに見て頂いたら、ご理解を頂けるのではないかと思います。方位と距離によって、若干その実際にある場所のですね、ずれが生じておりますので、そこはご覧を頂ければと思います。例えば東海第二で申し上げますと、こちらは含まれている市町村には、出入りはございませんけれども、それぞれの方位について若干場所についてのずれが出てきているという状況でございます。

次のページに柏崎刈羽原子力発電所がでございます。上の段のほうの表には、特に市町村の出入りはございません。それから下のほうの、出力の比をかけ算した、より遠くまでですね、影響の広がるという試算結果が出ていたほうでございますけれども、こちらについてはプロットした点が、従来 31.6km という値について、柏崎市であったところが、少し方位が変わりまして、見附市というところに動いてございます。見附市はちなみに従来から 30km 圏内にかかっている市町村でございます。そのことだけ念のため申し上げます。

それに付随してといいましょうか、一番下の南南西 SSW と書いてある方位に、従来は上越市が入っておりましたけれども、こちらのプロットの点は上越市からなくなりました。これはプロットの点ですので、必ずしもエリアそのものがどうかという評価ではありませんけれども、そのような形になっております。

- 記者 この 40.2 のところは、ここ前は魚沼だったんじゃないですか。
- 防災課長 そうですね、間違ってますね、確かに。ずれてますかね。
- 記者 いや、これは ESE の方向が…
- 防災課長 そうですね。失礼しました。40.2 の方向は、従来は ESE の方向だったんです。従って変更前というのは、その魚沼市の上の段といたらいいんでしょうか、ここが従来は 40.2 で魚沼市のプロットになっていたと。
- 記者 あの、最も遠い市というのは、長岡市に。
- 防災課長 長岡市に変わっております。はい、そういうことです。そこはすいません、ご理解頂けましたでしょうか。表の見方は。ちょっとわかりにくい表記があつて申し訳ありません。

それから志賀のほうに参りますけれども、こちらのほうは、上の表も下の表も似たよ

うな変更の状況ですけれども、従来は羽咋市というのが、南南東の方向でプロットする点が出てきておりましたけれども、こちらの方向の距離がだいぶ短くなっているということで、ここは所在の志賀町になりまして、羽咋市がこのプロットの点からは外れているという結果になっております。

敦賀の発電所につきましては、こちらは出入りはございません。先ほどの方向の変化によって、変わる点はございますけれども、市町村の出入りは、プロットした点についてはございません。

それから玄海の発電所でございます。先ほど申し上げましたが、数値が変更になった部分も赤い字で示させて頂いております。小数点以下の範囲で、変わっているところがほとんどでございますけれども。そのことと、方向が変更になりましたことによりまして、長崎県の松浦市、南西の方向になりますけれども、そこのプロットの点が、新しい市町村としては追加をされてございます。

それから川内の発電所でございます。こちらは変更の前に、北北東の方向で、割と距離の長いところに、出水市がございましたけれども、ここが先ほど申し上げた方位が一つ、時計と反対回りに回る形になりまして、真北が一番遠い方向になります。従って、こちらのプロットも、阿久根市に変更になってございます。

市町村のプロットの出入りについては、以上のような状況ですけれども、このこと自体は、市町村が含まれるかどうかということは、実際の範囲をどのように設定するかということで、プロットの点そのものに、必ずしも大きな意味があるわけではありませんので、その点も含んでご理解頂けたらというふうに思います。

私から基本的な説明は以上でございますので、また報道の皆さん、自治体の関係者はじめとして、ご迷惑ご混乱を与えておりますこと、大変お詫びを申し上げて説明は以上にさせていただきます。

○森本次長 今回の間違いにつきましては、外部からのご指摘で判明したと。その外部からのご指摘をですね、丹念に調べまして、全サイトにおいて確認をしたということでございますけれども、外部からのご指摘であったということ自体、反省すべき点があったかというふうに思います。

また、このシミュレーション、皆さん方の関心も高いし、また地方公共団体で、防災計画を作って頂くにあたって、参考にさせて頂くということで発表させて頂いたものですが、それがこのように間違っていたということで大変ご迷惑をかけたことを残念に思っております。

現在、6サイトに関係する自治体にはですね、全て説明とですね、それから謝罪の連絡をさせて頂いてます。また、引き続き全ての関係自治体に、こうした状況について、きちっとご説明をしたいというふうに思っています。

いずれにしても、科学的な見地から、この防災対策に資する、このシミュレーション

というものを作るということの、委員会の事務局としてですね、こうした形でミスをしたことは大変申し訳なく思っております。今後こういうことがないようにしたいと思いますが、まずこのようなミスを起こしたことをお詫び申し上げたいと思います。

大変申し訳ございませんでした。

それでは、質疑に入らせて頂ければと思います。

#### <質疑応答>

○司会 それでは只今より皆様のご質問をお受けしたいと思います。ご質問のある方は挙手をして頂き、マイクが来てからご質問して頂ければと思います。後ろから2列目。

○記者 読売新聞 イナムラです。前回との修正点との確認なんですけども、志賀原発で、前回サイト出力に応じた、計算した最大距離とですね、市町村名は、修正した後、羽咋市で97%で19.6kmだと思ったんですけど、今回19.6は中能登なってるんですけど、これはどういうことなんですか。

○防災課長 従いまして、従来、先日発表した中では、南南東の方向が19.6kmに広がりますという結果であったわけなんですけれども、それは先ほど見て頂いた矢印のついているのですね、図の志賀発電所のところを見て頂くといいのですが、19.6km南南東ということで、ちょうど地図にも羽咋市という字が書いている近くに赤いプロットが打ってありましたが、本当はこの図は、時計と反対回りに一目盛り分、一方位分ですね、ずれていなければいけなかったと。したがって、南東の方向に19.6kmというところに点が打たれるのが正しくて、南南東の方向は2.8kmという点を打たなければいけなかったところが、本来のシミュレーション結果でございます。そのような変化に伴って、打った場所が実際が変わってきているということです。

○記者 そうすると、修正で赤い文字で書いてあるはずなんですけど、これ最大距離んところが中能登に変わるってことですよ。

○防災課長 そのとおりです。この表がすいません、右と左を比べて、同じ市町になっただろうかっていうのが、黒と赤になってますけれども、そういう意味では、全部の場所が距離と入れ替わってますので、たまたま同じ町、同じ市になっているところはありませんけれども、最大距離の場所が、方位が変わって、市町村がそこから外れた場合には、おっしゃるように、最大距離の市町村というのが変更されることになって、この場合ですと、中能登町になっていると、そういうことです。

○記者 19.6のそこは、じゃあ羽咋市から中能登に変わったということでもいいんですね。

○防災課長 さようでございます。すいません、そういうとこ他にもあれば言って欲しいんですけども。

○防災課長 先ほどちょっと途中でどういうふうに見ればいいのかというご質問が入りましたけれども、柏崎刈羽原子力発電所につきましても、下の段の表のですね、もともと

東南東の方向が 40.2km であって、魚沼市だったところが、それが本来は東が 40.2km で、長岡市にプロットされていなければいけなかったというかたちになっております。全てについてちょっと市町村が最大距離で変わっているかどうか、私もすべてをまだちゃんと検証できていないのですが、一つ一つ例えば見てまいりますと、例えばですね、東海第二につきましても、最大距離は上の段のケースですけれども、18.4km が南南西で、従来はひたちなか市にプロットされておりましたが、この 18.4km は、この場合は時計回りに一方位ずらして頂いて、水戸市のところにプロットされるかたちになります。柏崎刈羽原子力発電所は先ほど申し上げたような変更がございました。しかもご説明をしたとおりですね。それから敦賀につきましても、一番遠いのが 22.4km というのが、南東にございましたけれども、ここは 22.4km はもともと長浜市になっておりましたが、これは敦賀市に変更になっております。

それから玄海発電所については、一番長い距離が、従来 27.5 というのがですね、下の方の図の東北東にございました。で、これ先ほど申し上げました、若干のデータの取扱いの整合性を取るために、計算をし直して、値が 27.5 に、0.1km 短くなっておりますけれども、ここは従来は糸島市というふうに表記しておりましたけれども、それを唐津市のほうに変更してございます。

それから川内原発につきましても、一番長いところが、22.4 のほう、従来ですと、北北東というケースで、これちょっと冒頭説明の中でも申し上げました、出水市というふうになっておりましたけれども、反時計回りに、真北の方に一番遠い距離が出ますので、ここが阿久根市に変わっていると。それでだいたいご説明足りませうでしょうか。

- 司会 よろしいですか。次の方。はい、じゃ一番後ろの。
- 記者 TBS タテヤマです。今回の過ちですが、これ外部の指摘というお話でしたが、外部というのは自治体なんですか、それとも他の機関とか、どこからの指摘で分かったんでしょうか。
- 防災課長 今回、気象データを元々、電力会社がサイトで計測しているものを頂いておりました、電力会社のほうから、ずれているような気がするけど、確認したほうがいいんじゃないかというご指摘を頂いたというのが、外部からのご指摘です。
- 記者 電力会社って東電ってことですか。
- 防災課長 今回は柏崎入ってますけど、東電ではなくて、一番最初にご指摘を入れて頂いたのは北陸電力からでございます。
- 記者 それを元に計算し直して、改めて分かったっていう。
- 防災課長 はい、全部のサイトについて、正しいかどうかを、もう一回全部計算し直したということです。
- 記者 これ指摘があったのはいつですか。
- 防災課長 一番最初に北陸電力から JNES にご連絡頂いたのが、金曜日の午後 3 時過ぎ

でございます。

○記者 計算し直して終わったのが今日ってことですか。

○防災課長 ええ、その後私どものほうでも確認をしておりましたけれども、計算を全部について確認をして今日の段階で皆さんにお知らせできるような状態になり、先ほど冒頭に次長からも申し上げましたけれども、自治体にもご連絡して、公表できるようにしたと、そういうことでございます。

○記者 ありがとうございます。

○司会 はい、他にございますか。

○記者 朝日新聞コイケです。ちょっと細かいんですが、そのコードをですね、変換して、その間違えたということなんですけども、変換作業はどちら、JNESなのか、どちらでしょうか。

○防災課長 作業は JNES のほうでやっております。要するに、気象データが入っている表があるのでなんですけども、その表を、いわゆるエクセルのプログラムみたいなものを作りまして、変換といいましょうか、方位毎に置き換えるときの作業でミスをしてしまったと、そういうふうに理解をして頂いて結構だと思います。

○記者 もう一点なんですけども、距離の違いの、その先ほど九電の 2 サイトについては、欠測とかを、他のサイトと同じような処理をしなかったというところもう少し分かりやすいように、具体的に。

○防災課長 これも実は今のコードの件と類似しているんですけれども、データの欠測がある場合には、99 番というコードを元々使っておりまして、それから風速が 0 のところは、要するに静かですということで、0 というコードを使っておりました。この 99 と 0 を変換したり、置き換えたりして、またデータとして使えるように加工するところで、取扱いのミスが起きてしまったのではないかと。ある意味、変換をする際の単純なミスが含まれていたようでございまして、それについては一回全部やり直して、取り込みをし直しております。

○司会 はい、次の方。

○記者 毎日新聞ニシカワです。要するに間違いを指摘したのが、被規制者だってことですよね。その点について、さっき冒頭で陳謝されましたけども、その規制庁、規制委員会が出来るときに、やっぱり被規制者よりも、要するに実力で上回らなければいけないというのは、事故調の指摘なんかでもあったと思うんですけども、こういう単純ミスを被規制者から指摘されるまで気がつかなかったということに対して、どういうふうに受け止めて、どういうふうに改善を図っていくというおつもりでしょうか。

○森本次長 はい、全くご指摘のとおりだというふうにまず思っておりまして、とても残念でございます。もとより、立ち上がって一ヶ月で、まさにそういう点、その人材を育

成して、まさに被規制者よりもですね、よく知っていて、かつ十分指導できるという体制を作るのが、この規制委員会の目的でありますけれども、まだまだそういう状況にも全く立っていないということは非常に遺憾でございますので、また、もちろんこれについては、規制委員会にもしっかりとご報告してありますけれども、今後の取り組みに活かしていきたいというふうに思っております。

- 司会 よろしいですか。次の方いらっしゃいますか。よろしいですか。
- 記者 朝日新聞ニシカワです。今後の再発防止策なんですけれども、今後どういうふうに取り組んでいくか、その辺を教えてください。
- 森本次長 まず本件につきましては、まず委員長から、要するに、本件について、絶対更なる間違いがないように確認をした上できちっとやって、かつ自治体に早急に謝罪と説明をします。そしてまた出来るだけ早く解決するよという指示を頂いています。各委員についても、委員長の指示について、了解を得ているかたちでさせて頂いています。

まずその本件について、今後どうするかについては、本当に悩ましいところではありますけれども、委員会とよく相談をですね、人材育成、それからこういう誤りがあったときの、いわゆる原因究明とですね、反省というのをきちっとやっていくということになるかと思えます。

一朝一夕ではなかなか難しいことは承知しておりますけれども、緊張感を持った仕事の仕方というのがまだまだ足りないという反省のもとに取り組みたいと思っております。

- 記者 今回の件については、どうすれば防げたのか、規制委として実際にやってたのは JNES さんと、たぶん相談をしながらやってたと思うんですけども、そのチェック体制としては、その JNES 側にもチェック体制が必要だったのか、その規制委にもそのチェック体制が欠けていたということなのか。
- 森本次長 そうですね、基本的にはダブルチェックと申しますか、規制庁のほうでそもそもデータに誤りがある可能性があるという認識でしっかりチェックすべきだったという点で、まずは規制庁そのものですね、仕事の仕方も反省しなくちゃいけないと思います。もちろん実際の作業をしていたのは JNES ということではありますけれども、やはり責任という意味でいうと、規制庁がですね、その作業を指示したわけですから、そのチェックのシステムが不十分だったというふうに思っています。

- 司会 よろしいですか。
- 記者 日経新聞カワイです。データの確認なんですけれども、その玄海と川内で距離が違うというお話がありましたが、最大で何 km くらい、何 km 違ったんでしょうか。
- 防災課長 災害で 0.3km の差が出たという結果になっております。すいません。
- 記者 どちらですか。玄海と川内の。



- 防災課長 玄海の北北東の方向について、ちょっとお待ちくださいね。玄海の北北東、川内の東南東の方向と南東の方向が、いずれも **0.3km** 増加をする結果になっております。
- 記者 従来に比べて新しいほうが **0.3km** 長いと。
- 防災課長 長くなっていると。3 方位については。
- 記者 するともう一つ、柏崎刈羽原子力発電所の **40.2km** の地点は、これは魚沼市ではなくて、違うところに、長岡市に変わったと。
- 防災課長 ええ、長岡市に、プロットの点がこう、ずれたかたちになっております。
- 記者 しかし、魚沼市はその **30km** 外ということは含まれてはいると。
- 防災課長 ええ、ですから、**40.2** のポイントはずれましたけれども、もともとの東南東の方向は **35km** の点がありますので、そこは魚沼市にプロットされているというかたちは、まあ距離は違いますけれども、そのプロットの点が含まれているという点では変わっておりません。
- 記者 わかりました。
  
- 司会 他にございませんか。
- 記者 共同通信タケオカです。すいません、出たり入ったりで、既に出ているら恐縮なんですけども、コンタージュのほうは、あの雲のもやもやのほうは誤りはなかったんでしょうか。
- 防災課長 コンタージュにつきましても、もともと気象のデータの取扱いの時点で、方位がずれてますので、全部ずれておりました。ご提供させて頂いたものについては、で、今回お配りした資料の中に入っている、コンタージュのブルーのグラデーションになっているものは、方位が一方位分ずれた形で、もう一回書き直されております。
- 記者 そうすると、前回頂いたやつも、同じような時計回りだったり、反時計回りだったりに回転させると正しい図になるんだと。
- 防災課長 はい、その通りです。
- 記者 それとあと、既に出たら恐縮なんですけど、数値が間違ってたところって、その川内玄海で、一個一個教えて頂いて宜しいですか。
- 防災課長 先ほどの市町村の入っている表がございませうけれども、その玄海と川内の **97%** 値と書いた欄に、赤い数字が入っているとこと、黒い数字が入っているところがあると思うんですが、赤い数字は変更があった点でございませう。ちょっと新旧になってなくて、どれだけ変わったか先ほどのご質問にもありましたけど、見えてなくて申し訳ないんですけれども、その点の変更があった点でございませう。ですからほとんどのところは、先ほど申し上げた **0.3km** の範囲ではありますけれども、計算の結果によって、若干数値が変わっていると。で、変わっていないところがありますが、これは要するに **0.1km** に達しなかったというふうにご覧頂ければいいので。非常に微妙な数値のところは、実際

は結果は当然ですけれども、変わっているということでございます。

- 記者 変更の前後で、地名が入っていないところは、これ海上を意味するのでしょうか。
- 防災課長 そうです。前後でといいましょうか、空欄になっているところは、元々プロットが無い、星、アスタリスクの点か、海上の点かどちらかでございます。海側方位っていう意味ですね、元々。
- 記者 もともと 97%の信頼度で点を打ってなかったところか、海上であるところという。
- 防災課長 はい、さようでございます。
- 記者 わかりました。

○司会 はい、じゃあ前から 4 列目の方ですね。

- 記者 東京新聞オオムラです。さっきの 1 番とか 16 番とかって話は、それは各電力会社が出してきたデータの部分で、電力会社のほうのデータがばらばらだったってことですか。
- 防災課長 電力会社のせいにするつもりではないんですけど、電力会社でも別に統一が取れているわけではなくて、サイト毎に表記が皆さん違うという状態で、気象データを頂いているということです。
- 記者 それを JNES が、打ち込んだわけですね？要するに、エクセルに。手打ちをしたと。
- 防災課長 そのとおりです。
- 記者 その時に、その 1 から 16 っていう、その人為的な入力ミスで間違えた、そういうことですか。
- 防災課長 はい、そのように解釈して頂いて結構です。
- 記者 この作業って、すいません、いつから始めたものなんですか。
- 防災課長 シミュレーション全体の作業の開始という意味ですね。これは今年の春頃からずっと、作業自体は始めております。
- 記者 結構、半年くらいあるわけなんで、それにしても、ちょっと仕事としてどうなのかなっていう感じを受けるわけなんですけど、この辺は JNES さんとしてはどんなふうにお考えなのでしょうか、ちょっと伺いたいんですけど。
- 防災課長 JNES としての立場をお聞きになりたいということですか。
- 記者 はい
- JNES 理事 ご指摘のように、今年の春から作業を行ってございましたけど、いろんなケーススタディをやっておりますので、そういった意味では、かなりの作業量をこの中では行ってきたということではございます。ただ、結果的にこういったミスを発生させてしまったということについては、私ども、何故こういったことが起きたのかということも含めて、しっかり検証して、再発防止に努めてまいりたいというふうを考えております。

- 記者 産経新聞ソバタニです。すいません、もうちょっと出てるのかもしれないんですけど、このずれることで、出入りの自治体っていうのは、結局何自治体あるんですかね。その影響範囲に入った自治体と入ってない自治体でいうと。
- 防災課長 プロットの点のあるところということで申し上げればですね、数をまだ足し上げてないんで、ちょっとあれですけども、東海第二のところはありません。柏崎刈羽原子力発電所については、見附市が新たに追加になり、上越市がなくなるということで、一増一減でございます。
- 記者 すいません、もうちょっとゆっくり。見附市が追加になり？
- 防災課長 すいません、上越市がプロットの地点からなくなりました。よろしいでしょうか。志賀原子力発電所の関係につきましては、羽咋市が従来は入っておりましたけれども、これがなくなりました、代わりに入った市町村はございません。
- それから敦賀発電所の関係につきましては、市町村の追加減少はございません。
- 玄海原子力発電所につきましては、長崎県の松浦市がプロットの地点に新たに追加をされました。福岡県の糸島市については、従来入っておりましたけれども、これがプロットの点からはなくなっております。
- それから最後川内原子力発電所でございますけれども、従来は出水市、出るに水の出水市ですけども、こちらが含まれておりましたが、これがプロットの点からは消えまして、逆にずれたことによって阿久根市が追加になりました。
- 以上がプロットの点の変更について、有無という意味では変更になった市町村です。
- 記者 あと同じあれで、30kmを超えている部分で、変更になっている、見りゃ分かるんでしょうけど、ありました？
- 防災課長 出入りという意味では、柏崎刈羽原子力発電所の部分だけでございます。今回の変更にかかる部分は、先ほどの魚沼市から、長岡市に移ったところとかですね。
- 記者 この30kmを超えてるところを見りゃいいわけですね。
- 防災課長 はい。
- 記者 それ以外は無いつてことですね。
- 防災課長 はい、それ以外は30km超のところはございません。
- 記者 はい、わかりました。ありがとうございます。
- 記者 南日本新聞です。川内原子力発電所について伺います。川内原子力発電所のサイト総出力のほうの図なんですけれども、これ前回21.0だったかと思うんですけども、この地点は当初出水市と書いてあって、その後阿久根市と変更されていたはずなんですけれども、この今回の表で見ると変更されていないんですが、どういう扱いになっているんでしょう。
- 防災課長 すいません、ちょっと私がこの変更の表を作る時に、変更前のやつを、すいません作業のベースをたぶん取っていたのに気づいてなくてすいません。そこが間違っているんだと思います。もともとが阿久根市に、21.0kmのときになっていたのは、ご指

摘の通りでございますので、すいません、今この場で修正させて頂いてもよろしいでしょうか。ここはですね、川内原子力発電所の下の方の表の、変更前と書いてある欄の二段目でございます。これが出水市となっておりますけども、前に情報提供させて頂いたときに修正をさせて頂いて、そこのプロットがちょっと誤りがありまして、阿久根市に直させて頂いたものが、すいません、この資料に反映できていなくて、間違っております。ですからその部分は、もともと阿久根市だったところが、阿久根市に移ったって言ったら変ですけども、方向は変わりましたが、引き続き阿久根市の中にあるということでご理解ください。すいません。誤っておりました。

○記者 じゃさっきの阿久根市が増えたっていうのはなくなるわけですか。

○防災課長 0から出現したという意味ではなくなります。失礼いたしました。

○記者 玄海原子力発電所でいうと、糸島を唐津市に直す？

○防災課長 修正をしたときに直しておりましたでしょうか、すいません。ああ、海の上になってたというポイントですね、これも。16.5kmENE、ちょっとお待ちくださいませ。そうですね、これは糸島市のすぐ近くではあったんですけども、海の上だったので、方式を統一させて頂いて、後で修正をしたときに、一番原子力発電所と結んだときに、一番遠くにある陸地というかたちで修正をさせて頂いたので、おっしゃるとおりで、糸島市ではなくて、唐津市に最終的に変更させて頂いていたものが、すいません、前のものに戻ってしまっておりまして。従ってもう一回申し上げます。玄海の下の方の表ですね。上から4段目のENEの方向の変更前の糸島市、これは最終的に情報提供申し上げたときは、唐津市に直させて頂いたものでございます。大変申し訳ありません。

○司会 はい、他にいらっしゃいますか。

○記者 新潟日報マエダです。まず一点目が、既に新潟県には防災課長が自ら足を運んで説明されてると思うんですけども、その新潟県に対して、今後間違ってたということで、もう一度足を運ぶ考えはおありでしょうか。

○防災課長 県のほうには、先ほど私から直接お電話申し上げて、こういう間違いがありましたという事実をお話をし、お詫びを申し上げ、関係の市町村への情報提供についても、こちらからお願いをしたような次第でございます。いずれにしましても、まだ市町村への直接のご説明が出来ておりませんので、そういった機会は早急に作りたと思って、県ともお話をさせて頂いておりますので、機会をとらえて、また対面でお会いできることがあれば、お詫び申し上げたいと思っております。

○記者 この件だけで早急にまた行くということは、今のところ考えていない。

○防災課長 ええ、このある意味修正だけでということではなくて、その説明の機会を早急に作る中で、いずれにしても調整をしたいと思っているということです。

○記者 それから柏崎刈羽原子力発電所なんですけれども、そのデータの取り違えということなんですけど、柏崎刈羽の場合は、どういう？例えば、1とか2とかさっきおっしゃっ

てましたけど、どういうデータをどういうふうになっていたんでしょう。

○防災課長 事実関係で申し上げますと、柏崎刈羽原子力発電所については、北が 1 というふうに表記をされているのですけれども、そこから北北東が 2 番というふうになっているのですけれども、北北東が 1 のつもりで作業してしまったというかたちに結果的になっておりますので、その先ほど矢印の書いた画で見て頂いたように、左周り、時計と反対側に回して頂くようなことが正しくなってしまったと、そういう状況です。

○記者 ありがとうございます。

○司会 他にございますか。

○記者 朝日新聞ミズノです。すいません、自治体にお電話されて説明されたということなんですが、反応というのはどういう反応があったんでしょうか。

○防災課長 まず、特にそれ自体ですね、すごくなっているんでしょう、当然不愉快であることには違いないとは思いますが、それ自体を強く糾弾をするというようなタイプのご反応というのは少なくというか、ございませんでしたので、その点は、あまり安心はしてはいけませんけれども、そのような状況でした。こちらからは最初とにかく、間違っていたからということでお詫びを申し上げて、すぐに資料も提供しますということでお伝えをしました。で、皆さんの自治体がたも、いろいろな方面に説明の予定が丁度おありになるようなタイミングでございますので、あるところは出来るだけ早く正確なデータをくださいというようなかたちでご要請があったようなところもありますけれども、例えば明日の説明に使うので、早く準備をしなければならないといったようなご事情は、個別にはございましたけれども、申し上げたようなかたちで、それをすごく、酷くショックを受けてですね、というようなかたちで受け止めておられるところは、私が少なくともご連絡をした範囲ではございませんでした。

○記者 例えば柏崎刈羽原子力発電所では、魚沼がかなり大きなショックを発表時に受けて、今回 35 には入ってるんですけども、今後どういった説明をされていくというお考えなんですか。

○防災課長 先ほどご質問も頂きましたけれども、市町村の関係、全市町村になるのか、一定の市町村になるのかは、県のほうで調整をしておりますが、説明会の場をまず持つというのが一つ。それから魚沼市につきましては、非常にインパクトが大きいということもありますので、個別に私なり参上しまして、ご説明と、受け止めについてしっかり声を聞いていきたいというふうに思っております。

○記者 あとすいません、もう一つ。川内原子力発電所で、W というところに薩摩川内市新しく入っているんですが、この数値は特になんてことなんですか。下の段のところ。

○防災課長 これはもともと値の無い方位だったところなんですけど、ちょっとお待ちください。調べさせていただきます。

もともとあったんですかね、ここは数字が。

すいません、ここはもともと数字があったんですけども、今回の計算のし直しで、本来、星、アスタリスク入れる方位になっているのですから、ここに、変更後のところに、市町村名が入っているのはおかしいですね。これはすいません、誤りです。申し訳ありません。ですから、川内原子力発電所の SSW 及び W の上の表、下の表、どちらも同じですけども、薩摩川内市変更後というほうに、入ってる部分は、これは本来プロットがございませんで、プロットした点の市町村名は空欄にするのが正しいかたちでございませんで、すいません。誤りがありまして申し訳ございませんで、先ほどの変更をかけて、修正しなければいけなかった部分も含めて、後でまたきちんとしたものに、直したものをお届けします。混乱をさせてしまって申し訳ありません。

今のところもう一度繰り返します。この変更前、変更後の入ってる市町村の表の、川内原発の上の表も下の表も同じですけども、方位が SSW 南南西、それから W の西ですね、ここが 97%値が空欄になっている行がございませんで、ここの変更後は、薩摩川内市と赤い字が入っていたり、黒字が入っていたりしますが、これは空欄にすべきものです。

変更後の欄を空欄にすべきものということでございませんで、変更前のほうはそのまま結構でございませんで。

- 司会 はい、他にいらっしゃいますか。
- 記者 産経新聞ソバタニです。これって HP にあげるんですか。
- 規制庁 はい、HP にあげます。
- 記者 明日の朝まで？
- 規制庁 作業が整い次第、完成次第ですね。
- 記者 要はこの時間に、もう一回報道してるわけで全部。それを全部もう一回全部載せ直すっていうのが難しい部分もあるんで、それを HP についていうふうなことを書いて、明日の朝みんな新聞を見たときに、HP を見て、全部載ってるかっていうのを確認したいんですけど。
- 森本次長 それは明日の朝までに HP に載せるように致します。
- 記者 わかりました。あとそれから、その広報の関係なんだけれども、今日このドタバタやってる中でね、広報課の職員の方が、明日発表すれば良かったんじゃないかよ、ハハハみたいな話をしてるのを、ちょうど僕は見てしまったんですけども、そういう認識の方がいらっしゃるといってこと自体が問題なんだなあとと思うんですけども、その辺について次長どう思われます。
- 森本次長 はい、正直申し上げれば、今回このシミュレーションについては、中身が大変難しいということもあって、皆さん方のご協力も得てですね、できるだけ丁寧にご説明をするようにしてきたつもりです。また自治体のほうにもですね、こちらはお叱りは頂きましたけれども、出来るだけ、これからはなお努力したいと思っております。ただ、そ

の矢先にこういう形でデータのミスが出たということで、私は本当に正直申し上げれば、目の前が真っ暗まではいきませんが、非常にショックを受けておりました。そういう意味で、いわゆるその自分たちの持つてる情報をしっかりとお伝えする、分かりやすくお伝えするというところの努力がまだまだ足りないし、今おっしゃったようなことが、もし仮にあったとしたら、それは大変問題だというふうに思います。意識改革も含めてやっていきたいというふうに思います。

○記者 会見始まる前に、そういう問題意識を持ったのであれば、私のところに言ってくれば、この質問もしたくないので、会見では言わないって言ったんだけども、来ないってことは問題意識は持ってらっしゃらないってことだと思うんですが。

○森本次長 私がですか。

○記者 いえ、僕のところにその職員がね。で、来ないから。

○森本次長 なるほど。

○記者 まあそういう問題意識も持たれてないんだなっていうふうに、だからこんなしたくもない質問してるんですけど。

○森本次長 そこはしっかりと指導したいというふうに思います。今回のことについては、本当にお詫びのしようもございません。また明後日委員会ございますけども、委員会にもきちっとご報告をし、またご議論頂いて、ご指導頂きたいというふうに思っております。

—了—